

THE DAILY JESUS NEWS

An ATJ Ministries Publication by John Wright

デイリー・ジーザス・ニュース #336

イエスの復活と永遠の宣教

イースターの日曜日におけるイエスの5回の復活の出現

サンヘドリンは衛兵に賄賂を渡して嘘を広める

マタイ 28.11-15

=====

11女たちが出発している間に、番兵の数人が町に入って、起こったことすべてを祭司長たちに告げた。

12祭司長たちは長老たちと会って計画を立て、兵士たちに多額の賄賂を渡して、13こう言いました。

「あなたは、『弟子たちが夜中に来て、私たちが眠っている間にイエスを盗み出したと言いなさい』。14この報告が総督に届いたら、私たちは総督を納得させて、あなたたちを困らせないようにしてあげましょう。」

15兵士たちは喜んで金を奪い取ったので、指示通りにしました。この話は今日までユダヤ人の間で広く語り継がれています。

=====

注: 私たちは「混合テキスト」の原典福音書を次のように上付き文字で識別します: マタイ =^{MT}、マーク =^M、ルカ =^L、ヨハネ =^J、使徒行伝 =^A。この「上付きID」は引用文の冒頭に挿入され、別の上付き文字が現れるまでその聖書書を識別します。さらに、**赤いイタリック体はイエスの言葉を示します。** 旧約聖書の引用は大文字で書かれています。

コンテキストダイジェスト

位置	エルサレムの神殿
タイムライン	4月上旬 (39ヶ月目)

イエスの生涯の文脈	第9段階：イエスの復活と永遠の宣教
	イエスの復活と40日間の宣教
	イースターの日曜日におけるイエスの5回の復活の出現
タイトル：	サンヘドリンは衛兵に賄賂を渡して嘘を広める

イエスが死からよみがえられた時、地震と、石を転がした天使の突然の出現によって、墓にいたローマ兵が恐怖で気を失った様子を見てきました。彼らが意識を取り戻したとき、彼らは深刻な問題に直面していました。イエスの遺体が消えていたのです！

ローマ軍では、正式な衛兵任務を遂行できない場合、通常は死刑、少なくとも棒で叩かれる刑に処せられました。ローマ軍全体の生命と安全は、効果的な衛兵任務にかかっていました。これは深刻な問題でした。

兵士たちは任務を放棄することで事態を悪化させた。身を潜めた者もいれば、自分たちをこの窮地に陥れた祭司長たちのところへ行き、脱出策を探そうとした者もいた。超自然的な力が夜警に侵入し、ほんの数秒で世界をひっくり返すとは、一体どうして彼らは知る由もなかつたのだろうか。

祭司長たちは、賄賂と嘘という、いつもの手口に頼りました。イエスを殺害するために使ったのも、まさにこれでした。彼らはこうして、イエスの復活の真実を覆い隠し、福音に抵抗しようとしたのです。

まず、兵士たちに口封じをするのに十分な金を与えた。ピラトが隠蔽工作を知った場合、兵士たちが軍を離脱し、人里離れた場所で逃亡生活を送るのに十分な額だっただろう。また、兵士たちに馬鹿げた、あからさまな嘘をつかせるのに十分な額だった。彼らに与えられた物語の愚かさに気づいただろうか？

兵士たちは眠ってしまったと主張することになっていた。眠っている間に弟子たちがやって来て遺体を盗んだというのだ。なるほど。では、この嘘が真実だったと仮定してみましょう。すると、疑問が湧いてきます。兵士たちが眠っていたとしたら、遺体を盗んだのが弟子たちだとどうして分かったのでしょうか？

さらに、訓練されたローマの戦士たち（もし彼らが目覚めていたら）を圧倒できるほどの大勢の男たちが、夜の静寂の中で、衛兵を起こさずに重い石を動かすことができたのはなぜでしょうか？

最後に、弟子たちは自分たちも同じ運命を辿ることを恐れて鍵のかかった扉の後に隠れていたのに、十字架にかけられたとされる犯罪者の遺体を盗んだ動機は何だったのでしょうか。この嘘は、解決した問題よりも多くの問題を生み出しました。

皮肉なことに、祭司長たちはイエスが言われた通り、死から蘇るかもしれない信じていました。弟子たちはその可能性を信じていませんでした。彼らは万が一イエスが蘇るかもしれないという可能性に備えて、番兵を配置していました。彼らはイエスに何度も「しるし」を求め、イエスは「ヨナのしるし」、つまり復活を与えました。今、イエスは彼らが求めていたまさにそのしるしを成就し、番兵たちの証言もそれを裏付けていました。彼らはイエスへの憎しみに深く心を歪められていたため、これらの事実には全く気づかなかったのです。

さらに、祭司長たちは弟子たちが遺体を盗んだとは全く信じていませんでした。そうでなければ、彼らのところへ行き、遺体を渡すよう強要したはずです。「ヨナのしるし」の証拠を目の前にしていながら、彼らがその真実性を見出せず、可能性として真剣に考えることさえできなかつたというのは、驚くべきことではありませんか。

応用：

悲しい真実は、時代を超えて多くの人々が、祭司長たちと同じように盲目的にイエスの復活の証拠を見つめようとしたということです。それは罪深さの露呈です。

私たちクリスチヤンは皆、同じ罪深さを共有しています。祭司長たちが自らの罪に気づいていなかつたように、私たちも時として自分の罪に気づかないことがあります。イエスの御言葉の光と、御靈の啓示によってのみ、私たちは自分の罪についての真実と、それに対するイエスの救いの解決策を理解し、受け入れることができます。

私たちは毎日、神に、私たちが気づいていない罪や、神に似ていない態度を示してくださるよう祈る必要があります。祈りは私たちの心を和らげ、罪の啓示を謙虚に受け入れる力を与えてくれます。今日、あなたはご自身の靈的な盲目さについてどのように祈りますか。